

## 2023 年度「講座・企業家学」

### —実施報告—

伊藤 博之

大阪経済大学教授

#### はじめに

「FES 便り」では、企業家研究フォーラムと大阪商工会議所（大阪企業家ミュージアム）の協賛事業を中心に、年間行事の報告などを掲載しています。前号は、「企業家に聞く」の企画紹介でしたので、今回は、2023 年度開講「講座・企業家学」について報告します。以下、2023 年 6 月開催講座と 11 月講座開催予定を記載した後、2024 年度からの開催形式の変更について紹介します。

#### 6 月開講講座

6 月開講講座の共通テーマは、「大阪・道修町と製薬業に関わる企業家」としました。江戸時代に薬種問屋集積地であった大阪・道修町から武田薬品工業、塩野義製薬、田辺製薬（現・田辺三菱製薬）、小野薬品工業など、日本を代表する多くの製薬企業が誕生しました。そうした背景のゆえに、産業集積、医薬品産業、同族経営などの観点から道修町に関心を寄せられている企業家研究フォーラム会員も少なくないのではないのでしょうか。

今回の講座企画担当者もそうした関心をもって、「道修町が産業集積地としてどのような特徴を有していたのか」、「問屋から近代的な製薬企業への発展の背景にどのようなメカニズムが働いたのか」、「そこにどのような企業家の活躍や失敗があったのか」、「同族経営が道修町の薬

種問屋の存続と近代的な製薬業への発展にどのような影響を与えたのか」などの問いに洞察を提起していただけるであろう第一線の研究者にご登壇を依頼しました。幸いにも、第一候補として名前を挙げた諸氏全員に講師担当の快諾をいただくことができました。

以下、4 回の講演を聴講した筆者（伊藤）の観点から簡単にご紹介します。

初回（6 月 3 日）の網島聖氏（佛教大学）の講演テーマは、「薬の町・道修町を維持したもの—武田・塩野義・田辺の御三家とさまざまな薬種商の制度・組織—」でした。網島氏の講演では、都市地理学（人文地理学、経済地理学、歴史地理学）の観点から、道修町が近代に存続・発展する要因を、地域的な制度・組織・文化に注目しながら、江戸時代の状況、明治期の道修町のアクター（問屋、二次問屋、仲買、注文屋）の取引関係、それに続く戦間期の展開などが詳しく紹介されました。

2 回目（6 月 10 日）は、日本経営史が専門の安士昌一郎氏（立教大学）に、「製薬事業の礎を築いた企業家たち—田辺、武田、塩野義—」というタイトルで講演を担当いただきました。サブタイトルからも分かるように、田辺製薬（現・田辺三菱製薬）、武田薬品工業、塩野義製薬の 3 社が道修町の薬種問屋からどう発展したのが講演の主要テーマでした。講演では、明治から大正期の医薬品業界の状況、その背景と

なる国の政策や医薬品にかかる制度や各社の歴史といった背景に照らした、各家当主の企業家活動の意義が紹介されました。

3回目(6月17日)の講演は、ファミリービジネスや経営戦略論・組織論を専門とする藤野義和氏(信州大学)による「道修町薬問屋の発展と同族の『善い経営』」というタイトルの講演でした。製薬業界では同族企業が多いことが指摘される一方、近年、武田薬品工業のように、同族経営からの転換を図る事例も見受けられます。藤野氏の講演では、こうした製薬業界の特徴の背景で働くメカニズムを、道修町発の企業を中心に製薬業界での戦略グループの見取り図を描くことで解明するものでした。

最後の講演(6月24日)は、生島淳氏(高知学園短期大学、専門は企業家史)に担当いただきました。講演タイトルは、「受け継がれる大阪商人のDNA-鳥井信治郎の企業家活動-」でした。生島氏の講演では、サントリー創業者の鳥井信治郎氏の企業家としての原点は、道修町の薬種問屋であった小西儀助商店や小西勘之助商店での奉公にあったことが、サントリー創業の歴史に重ねて紹介されました。

以上、今回の講演シリーズでは、道修町という一地点に焦点を当てたことで、各講師の講演が相互に連動しながら順序良く展開されるかたちとなりました。その結果、聴講者にとって、道修町の製薬業と企業家について深く学ぶ貴重な機会となったと思います。筆者自身にとっても、道修町の取引システムと企業家活動の全体像に初めて触れる機会となり、大変学ぶところが多くありました。

#### 11月開講講座予定

この原稿が刊行される時点では、2023年11月の講演シリーズも終了しているはずですが。本稿執筆時点(2023年10月)では講演内容に立ち入れませんので、講義計画の概要のみをここでは紹介します。

11月の「講座・企業家学」では「大衆市場

を創る企業家」という共通テーマを掲げています。6月の講座が道修町と製薬業界に焦点をあてたのに対して、こちらの講演シリーズでは、バラエティーに富んだ業界や企業家を取り上げつつ、企業家と大衆消費市場のつながりに多面的な光を当てることを目指します。講演予定は、以下の通りです。

- 11月4日(土曜日) 西尾久美子氏(近畿大学)  
「秋元康とエンタメ市場の創造  
—AKB48 選抜総選挙の事例—」
- 11月11日(土曜日) 白寅秀氏(大阪経済大学)  
「境界なき市場の開拓者  
—ロッテの重光武雄と辛格浩—」
- 11月18日(土曜日) 谷内正住氏(大阪商業大学)  
「戦後スーパーと創業者  
—ニチイ・西端行雄を中心として—」
- 11月25日(土曜日) 足代訓史氏(専修大学)  
「フリマアプリ市場の創造  
—メルカリ・山田進太郎を中心とした企業家活動—」

それぞれ単独の講演としても非常に面白い内容となっていますので、聴講者のご自身が興味を持つ単独の講演を聴講しても、学ぶところは大きいのではないかと思います。

#### 今後の「講座・企業家学」の変更点

最後に、2024年度に予定されている「講座・企業家学」の開催形式の変更について紹介します。「講座・企業家学」に関しては、上記のように6月と11月の土曜日に連続講演シリーズとして開講されていたところを、2024年度(今年度)から単独講演を平日の夜(18時半~20時)に年2回開講する方式に切りかえます。今回の開講形式変更の主眼は、仕事帰りのビジネスパーソンの受講者を増やすことにあります。講演を録画してオンデマンドで配信することなども検討していますが、2024年度の結果を見な

がら、今後とも開講形式の改善を引き続き検討することになります。

なお、「講座・企業家学」の企画については、過去3年間、総務委員である柴田淳郎（滋賀大学）、松原日出人（中京大学）、伊藤博之（大阪経済大学）が担当しましたが、2025年度の企画からは新しいメンバーに担当が移行します。この間、講師の依頼を快くお引き受けいただいた諸氏と講座の運営管理を一手に引き受けいただいた大阪企業家ミュージアム事務局の方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。

